

ことなかれ主義が利他的行動に与える影響

新井拓馬 大河内惇 片山棕 坂口瑛梨

1、概要

ことなかれ主義の傾向が強いほど利他的行動をとらないという仮説を立て、学生へのアンケート調査を行うことで研究を進めた。そしてことなかれ主義の傾向が強いほど利他的行動をとらないという仮説通りの結果が得られた。しかし現実ではことなかれ主義だと言われる日本人でも利他的行動はたくさん行っている。例えば日本の ODA(政府開発援助)は世界最大規模である。しかし、世界最大規模の ODA 拠出国であっても日本は国際的にあまり高い評価は得ることができていない。ことなかれ主義によって形式ばかりにとらわれた質の伴わない利他的行動しか出来なくなってしまっているのではないだろうか。本論文ではこれらの現状を踏まえてことなかれ主義の世界観を持った日本人がどうやったら質の伴った利他的行動をできるようになるのかを述べたい。

2、序文

ことなかれ主義は欧米などの外国に比べて、多くの日本人が特有に持つ世界観である。例えば東日本大震災が起きた時の日本人の冷静さ、マナーの良さなどに対して世界中から称賛の声があがった。この様な良い意味での日本人らしさにことなかれ主義の世界観は少なからず関係していると思われる。一方で多くの場合、ことなかれ主義は悪い意味で使われる。例えば、今の野田内閣の政権はことなかれ主義だ、という話がある。今までの民主党の首相の政策実行力の無さや閣僚の失言などで異例のスピードで辞任するという事態があったために、用心して消極的な態度をとっていると思われてしまっているのだ。他にも欧米諸国に比べて日本では起業しようとする人が極端に少ないことにもことなかれ主義の世界観が絡んでくると考えられる。積極的に新しいことに取り組むことに対し、失敗を恐れて現状に満足しようとし、責任回避をしたがるのである。

この様な身近な所でも感じる事ができることなかれ主義の世界観は、経済活動にも何かしらの影響を与えるのではないかと思われる。そこで私たちはことなかれ主義と関係がありそうな経済活動にどのようなものがあるか考え、利他的行動に着目した。利他的行動とは、ボランティアや募金など伝統的経済学で利潤最大化を目的とする経済人なら取らないような行動のことである。前述した様な東北関東大震災で被災した人たちが自分のことよりも他人を思いやり協力する姿勢や、ODA 拠出も利他的行動になる。

ことなかれ主義が利他的行動にどのような影響を与えるのかを研究することは、グローバル化が進みより重要視される国際協力、国際援助とどのように日本が関わっていくのかを考える上で有意義である。今の日本が ODA など世界最大規模の援助を行っているのにも関わらず、国際的な協力や貢献またはその姿勢があまり評価されていないことに対して、考え直す機会にもなる。また、日系企業が行っている CSR のような利他的行動に関してもよりよいものに変えることができるかもしれない。

そして研究は学生を対象としたアンケート調査をもとに行った。学生を対象にした訳は二つある。一つ目は、この研究がこれから日本を背負って活躍するような将来性のある若い世代の利他的行動やことなかれ主義の世界観を見直す機会を与えるものだからである。二つ目はアンケートの実施にあたり、学生に被験者になってもらった方が標本数を多くすることができるからである。これらの理由から学生を対象とすることにしたので、アンケート内容も日常生活でみられる様なシーンを題材にしたものにし、ことなかれ主義と利他的行動の度合いを測ることにした。また、アンケートの問題を作成するにあたって、私たちなりのことなかれ主義と利他的行動のそれぞれの言葉の定義づけをした。まず、ことなかれ主義の定義を「解決すべき問題が発生しているにもかかわらず、それを避けたり、あるいは見て見ぬふりをしたりして、係わり合いになるのを避け、決断をすることなく問題を放置する消極的な考え方」とし、大きく分けて「現状維持」と「責任回避」の二つの要素が入っていると考えた。そして利他的行動の定義を「自らの不利益をかえりみず他の個体に利益をもたらす行動」とした。その上で、説明変数を「ことなかれ主義の度合」、被説明変数を「利他的行動をする度合」と置いた。以上の定義から係り合いになるのを避けて消極的にしか行動をとらないようなら利他的行動は行わないだろうと私達は考え、「ことなかれ主義の度合が強いほど利他的行動をとる人は少ない」という仮説を立てた。

3、研究方法

研究方法は、紙媒体でアンケート¹を行うことによってデータを集めた。説明変数の問題は 11 問作成し、7 段階で回答してもらった。被説明変数は 8 問の問題を 2~4 段階で回答してもらうようにした。回答の際、数字で答えてもらうと心理的に奇数に回答が集まってしまうなどの弊害を回避するためにあらかじめ目盛を振った線分に丸を付ける形で答えてもらうように工夫した。研究対象を学生としたいことから、回答者は知人などが中心となった。

そして説明変数と被説明変数の問題一つ一つに対して R を使用してプロビット重回帰分析とプロビット単回帰分析を行い、係数の傾きと有意水準を見た。分析の際の回答の数値化については、次のように設定した。説明変数については、ことなかれ主義の度合いが強

¹ 付録 A、付録 B を参照

いほど値は大きくなるとした。すなわち、各設問において、「完全に当てはまる」は「1」となり、1段階進むにつれて値は1ずつ増えるので、「完全に当てはまらない」は「7」となる。ただし、問①と②は2つ合わせて意味を持つとしたため、ダミー変数に変換した後に掛け算を行った値を分析に用いた。ダミー変数への変換は、「完全に当てはまる」を「0」とし、それ以外の選択肢は「1」とした。ここで、問①で「1」となり問②で「0」となる場合はホモエコノミカスであると考えられるので、純粋なことなかれ主義と区別する必要がある。ダミー変数変換後の掛け算によって、ことなかれ主義の場合だけ値が「1」となるため、差別化が図れる。一方、被説明変数については、ダミー変数を設定した。説明変数と同様の値の設定方法を用いない理由は、1段階の差が値1つ分の差であると判断しがたいためである。ダミー変数への変換は、利他的行動をしない場合が「1」、利他的行動をする場合が「0」となるように設定した。すなわち、問①～④は「0回」を「1」とし、それ以外の選択肢を「0」とした。問⑤と⑥では、「いいえ」と「古本屋に売ってお金にしたい」を「1」とし、「はい」と「貧しい国へ寄付したい」を「0」とした。問⑦と⑧については、「よくする」を「0」とし、それ以外の選択肢は「1」とした。

以上の分析を行った後で、説明変数同士の間で影響を及ぼしあっている因子がないかどうかを確認するために単回帰分析も行った。

4、研究結果

付表 A のアンケートを主に学生相手にとり、統計ソフトの R でプロビット重回帰分析を行ったところ有意水準 10%以下を満たしたアンケートがあった。その結果を以下の表 1 の様にまとめた。

表 1-1 有意水準 10%以下を達成したアンケート(プロビット重回帰分析)

説明変数のアンケート(問 1)	被説明変数のアンケート ²	係数の符号 ³
東日本大震災前の1年間に月平均で寄付・募金をした回数 (0回、1～2回、3～4回、5回以上)	あなたは満員電車のなか座っている。目の前で二人の小学生が喧嘩をはじめ、今にも殴り合いになりそうだ。あなたは二人をなだめる。(問 7)	正***
	急いでいる時に人がエスカレーターをふさいでいたら、どいてもらう。(問 9)	負**

² 被説明変数のアンケートの回答方法は全て（完全に当てはまらない、かなり当てはまらない、やや当てはまらない、どちらとも言えない、やや当てはまる、かなり当てはまる、完全に当てはまる）の7段階のいずれかに丸を付けてもらう形である

³有意水準は*が10%、**が5%***が1%である

表 1-2 有意水準 10%以下を達成したアンケート(プロビット重回帰分析)

被説明変数のアンケート(問 2)	説明変数のアンケート	係数の符号
東日本大震災後の1年間に月平均で 寄付・募金をした回数 (0回、1~2回、3~4回、5回以上)	あなたの周りで、上司がインサイダー取引をしているという噂を聞いた。上司との信頼関係にヒビが入るかもしれないが、問いただしてみる(問 6)	正**
	係わり合いになるのを避け、決断をすることなく問題を放置する消極的な考え方をする(問 11)	正*

表 1-3 有意水準 10%以下を達成したアンケート(プロビット重回帰分析)

被説明変数のアンケート(問 3)	説明変数のアンケート	係数の符号
東日本大震災前に月平均でボランティア活動に参加した回数 (0回、1~2回、3~4回、5回以上)	勤めている食品会社が賞味期限切れの商品を使い回しているという噂を聞いた。自分の出世の進退に影響が及ぶかもしれないが、あなたはそのことを上司に問いただしてみる(問 5)	負*

表 1-4 有意水準 10%以下を達成したアンケート(プロビット重回帰分析)

被説明変数のアンケート(問 6)	説明変数のアンケート	係数の符号
いらなくなった本はどうしたいか (古本屋に売ってお金にしたい or 貧しい国へ寄付したい)	あなたは満員電車のなか座っている。目の前で二人の小学生が喧嘩をはじめ、今にも殴り合いになりそうだ。あなたは二人をなだめる(問 7)	正**
	急いでいる時に人がエスカレーターをふさいでいたら、どいてもらう(問 9)	正*

表 1-5 有意水準 10%以下を達成したアンケート(プロビット重回帰分析)

被説明変数のアンケート(問 7)	説明変数のアンケート	係数の符号
電車やバスの中で高齢者や身障者に席を譲るか (よくする、たまにする、ほとんどしない)	あなたは満員電車のなか座っている。目の前で二人の小学生が喧嘩をはじめ、今にも殴り合いになりそうだ。あなたは二人をなだめる(問 7)	正***

表 1-6 有意水準 10%以下を達成したアンケート(プロビット重回帰分析)

被説明変数のアンケート(問 8)	説明変数のアンケート	係数の符号
高齢者や身障者が困っている際に声をかけるか (よくする、たまにする、ほとんどしない)	係わり合いになるのを避け、決断をすることなく問題を放置する消極的な考え方を する(問 11)	正**

以上のプロビット重回帰分析を踏まえて単回帰分析も行い、有意水準 10%以下になったアンケートを以下の表 2 の様にまとめた。

表 2-1 有意水準 10%以下を達成したアンケート(プロビット単回帰分析)

被説明変数のアンケート(問 1)	説明変数のアンケート	係数の符号
東日本大震災前の 1 年間に月平均で寄付・募金をした回数 (0 回、1~2 回、3~4 回、5 回以上)	あなたは満員電車のなか座っている。目の前で二人の小学生が喧嘩をはじめ、今にも殴り合いになりそうだ。あなたは二人をなだめる(問 7)	正***

表 2-2 有意水準 10%以下を達成したアンケート(プロビット単回帰分析)

被説明変数のアンケート(問 2)	説明変数のアンケート	係数の符号
東日本大震災後の 1 年間に月平均で寄付・募金をした回数 (0 回、1~2 回、3~4 回、5 回以上)	あなたの周りで、上司がインサイダー取引をしているという噂を聞いた。上司との信頼関係にヒビが入るかもしれないが、聞いてみただしてみる(問 6)	正**

表 2-3 有意水準 10%以下を達成したアンケート(プロビット単回帰分析)

被説明変数のアンケート(問 3)	説明変数のアンケート	係数の符号
東日本大震災前に月平均でボランティア活動に参加した回数 (0 回、1~2 回、3~4 回、5 回以上)	勤めている食品会社が賞味期限切れの商品を使い回しているという噂を聞いた。自分の出世の進退に影響が及ぶかもしれないが、あなたはそのことを上司に聞いてみただしてみる(問 5)	負**

表 2-4 有意水準 10%以下を達成したアンケート(プロビット単回帰分析)

被説明変数のアンケート(問 6)	説明変数のアンケート	係数の符号
いらなくなった本はどうしたいか (古本屋に売ってお金にしたい or 貧しい国へ寄付したい)	あなたは満員電車のなか座っている。目の前で二人の小学生が喧嘩をはじめ、今にも殴り合いになりそうだ。あなたは二人をなだめる(問 7)	正**
	急いでいる時に人がエスカレーターをふさいでいたら、どいてもらう(問9)	正**

表 2-5 有意水準 10%以下を達成したアンケート(プロビット単回帰分析)

被説明変数のアンケート(問 7)	説明変数のアンケート	係数の符号
電車やバスの中で 高齢者や身障者に席を譲るか	あなたは満員電車のなか座っている。目の前で二人の小学生が喧嘩をはじめ、今にも殴り合いになりそうだ。あなたは二人をなだめる(問 7)	正***

被説明変数のアンケートで問 8 に関してはプロビット重回帰分析の時には説明変数のアンケートの問 11 との間で有意水準 5%であったが、単回帰分析では説明変数のどの問いに対しても有意水準は 10%以上であった。

5、考察

アンケート分析結果
単回帰分析

Y : 被説明変数 X : 説明変数
下線は負の値
*有意水準 10%以下 ** 5% *** 1%

Y 1	X 7 ***	
Y 2	X 6 **	
Y 3	<u>X 5 **</u>	
Y 6	X 7 **	X 9 **
Y 7	X 7 ***	
Y 8	なし	

アンケート分析結果 重回帰分析

Y：被説明変数 X：説明変数

下線は負の値

*有意水準10%以下 **5% ***1%

Y1	X7***	<u>X9**</u>
Y2	X6**	X11*
Y3	<u>X5*</u>	
Y6	X7**	X9*
Y7	X7***	
Y8	X11**	

上の図はそれぞれの分析結果をまとめたものである。X1は説明変数の問①というふうな意味で、有意水準10%以上で相関のあった組み合わせを羅列した。仮説「ことなかれ主義の度合いが強いほど利他的行動をしない」に整合的であれば、係数の符号は、正になる。一方、係数の符号が負になるということは、仮説に整合的でないといえる。つまり、「ことなかれ主義の度合いが強いほどであれば利他的行動をする」と解釈できる。

最初に、単回帰分析と重回帰分析双方で有意水準が1%で相関のあったY1とX7およびY7とX7の組み合わせについて考察してみたい。

a) Y1とX7

符号は正で有意水準10%である。この結果から高い確率で「自分が満員電車のなかに座っているとき、小学生が喧嘩をしていて、殴り合いになりそうにも関わらず、その小学生をなだめない」という人は「東日本大震災前の1年間に月平均で寄付・募金をした回数が0回」であるということが言える。これには「責任回避」が強く働いているのではないかと考えられる。特に、満員電車での喧嘩をなだめることも募金することも、不特定多数の人々を対象にした行動であり、そのような状況では、特に責任を逃れがちであると推測できる。

b) Y7とX7

符号は正で有意水準10%である。これは高い確率で「自分が満員電車のなかに座っているとき、小学生が喧嘩をしていて、殴り合いになりそうにも関わらず、その小学生をなだめない」という人は、「電車やバスの中で高齢者や身障者にほとんど席を譲らない」ので

ある。どちらの質問も、電車の中での出来事を想定している。公共の場では、自分と何の関係のない人間が多く集まる。ことなかれ主義者は、彼らと関わりを持ちたいとは思わない。そのため、席を譲るといふ他人と関わりを持つことになってしまう利他的行動を拒むのではないかと推測した。

次に、ふたつの分析でともに有意水準5%で相関のあった Y2 と X6、Y6 と X7 の組み合わせを考察する。

c) Y2 と X6

符号は正で有意水準5%である。これは「あなたの周りで、上司がインサイダー取引をしているという噂を聞いた。上司との信頼関係にヒビが入るかもしれなので、問いたさない。」ならば、「東日本大震災後の一年間に月平均で寄付・募金をした回数が0回」ということだ。アンケートを実施したのが震災後半年未満であり、記憶にも新しく、最も募金活動が盛んに行われていた時期であった。そのような状況下で一度も募金を行っていないのは、助け合うという考えをもたない、自己責任や自己解決の念が強いと考えられる。自分の身に降りかかってくる事柄ではないと考えるため、インサイダー取引の有無や募金に関心がないのであろう。

d) Y6 と X7

符号は正で有意水準5%である。「自分が満員電車のなかに座っているとき、小学生が喧嘩をしていて、殴り合いになりそうにも関わらず、その小学生をなだめない」という人は「いらなくなった本は寄付するより、古本屋に売ってお金にしたい」と考えるようだ。このような人々は他人と関わりを持ちたくないし、古本はお金に換えてまた自分の消費に当てたいと考えたとすれば、個人主義の傾向が強く表れたといえるだろう。ことなかれ主義の度合いや利他的行動が、ときに個人主義の心理性と関係があることは非常に興味深いテーマである。

Y3 と X5 は符号が負であった。有意水準は単回帰分析では5%、重回帰分析では10%で相関が認められた。

e) Y3 と X5

符号は負で、有意水準は単回帰分析では5%、重回帰分析では10%である。「勤めている食品会社が賞味期限切れの商品を使い回しているという噂を聞いて、自分の出世への影響を気にせず、上司に噂の真偽を問いたす」ような、ことなかれ主義とは呼べない人でも「東日本大震災前の月平均で、ボランティアという利他的行動はしない」ということで

ある。これは「ことなかれ主義は利他的行動をしない」という仮説に反して、ことなかれ主義でない人もボランティア活動という利他的行動をしないことを意味している。

だが、この結果は信用できない可能性がある。私たちがアンケートを実施した当時、世間ではまさに食品会社の不正がニュースに取り上げられていたのだ。そのため人々はこの類の問題に対して、いつも以上に敏感になり、厳しい正義感を持って回答した可能性がある。それがことなかれ主義の度合いを減少させたのだろう。

残念ながら、ここでそのようなバイアスがかかったことが断言できるわけではない。しかし、アンケート調査の際には時事ニュースにも最新の注意を払って、設問を作成することが重要であるということが再確認する機会を得ることができた。

Y6とX9の相関は単回帰分析においては有意水準5%、重回帰分析においては10%で、正の相関が認められた。

f) Y6とX9

符号は正で、有意水準は単回帰分析で5%、重回帰分析では10%である。「自分が急いでいる時に人がエスカレーターをふさいでいても、どいてもらわない」ような人は「いらなくなった本は寄付するより、古本屋に売ってお金にしたい」と考えるようだ。この結果もY6とX7の場合と同様に個人主義の要素があるのではないだろうか。あるいは自己解決を大事にする、他人の助けを借りないという思考がうかがえる。そのような他人と関わりを持たないという傾向は利他的な行動を起こしにくいのだろう。

また、重回帰分析の結果でのみ認められたY1とX9、Y8とX11にも触れておく。

g) Y1とX9

符号は負で、有意水準は5%である。「自分が急いでいる時に人がエスカレーターをふさいでいても、どいてもらわない」ような人は「東日本大震災前の1年間で月平均1回以上の寄付・募金をしている」という。「ことなかれ主義は利他的行動をしない」という仮説に反して、ことなかれ主義が利他的行動をするという結果になった。これは理由が推測しにくい。震災後ならば援助の風潮が高まり、ことなかれ主義が募金するというのもまだわかる。しかし、震災前のことを質問してこのような結果が出たことは納得のいく解釈を与えがたい。

私たちの研究の意義のひとつには、金額の規模にばかりとらわれた日本のODA援助を批判し、質の伴った援助を考えていきたいという思いがある。ここで、ことなかれ主義は金額による援助をしがちである、とするならば、この分析とも合点がいく。この考察をより深めるためには、日本人と他国人の事なかれ主義の度合いを比較する研究をし、日本人

なりの援助の仕方を考えていくことが必要である。

h) Y8 と X11

符号は正で、有意水準は5%である。「関わり合いになるのを避け、決断することなく問題を放置する消極的な考え方をする」ならば「高齢者や障害者が困っていても声をかけない」のである。これはすんなりと納得できる結果だ。X11は「現状維持」ということなかれ主義の2側面のひとつを直接質問する問いである。仮説通りのわかりやすい結果である。

最後に、重回帰分析でのみ有意水準10%で相関が認められたY2とX11、Y3とX5の組み合わせを考察したい。

i) Y2 と X11

符号は正で、有意水準10%である。これは「関わり合いになるのを避け、決断することなく問題を放置する消極的な考え方をする」ならば「震災後の1年間に月平均で寄付・募金をした回数が0回」ということである。これは正の符号だが、よく考えると疑問点がいくつかある。まずこの結果はY1とX9の考察とも矛盾する。また、震災後は世の中に募金する風潮が高まったため、ことなかれ主義ならばその風潮に従い募金をすることも考えられる。

j) Y3 と X5

符号は負で、有意水準10%である。「勤めている食品会社が賞味期限切れの商品を使い回しているという噂を聞いても、自分の出世への影響を気にして、上司に噂の真偽を問いただす」ような、ことなかれ主義とは呼べない人でも「臓器提供には協力しない」ということである。やはり時事ニュースとして、食品会社には厳しい回答をしたと考えられる。また臓器提供への回答にはその他の世界観が関係していたとも考えられる。例えば死生観や宗教、医療への貢献心などである。

以上が分析の結果を受けての考察である。

6、結論

研究では「ことなかれ主義の度合いが強いほど利他的行動をとる人は少ない」という仮説を立て、アンケート調査によって検証し、仮説と整合的な結果を得た。この研究結果に基づき、グローバル化が進み国際協力の姿勢が今まで以上に求められる今後の国際社会にお

いて、日本人がその特徴を生かしながら質の伴った利他的行動をとるための案を提案してみたい。

日本人の特徴としてことなかれ主義を挙げ、その構成要素として責任回避と現状維持を考えたわけだが、この二つの要素をもとに話を進めていく。

まずは責任回避の面においてだが、仮説と整合的な結果が得られたので、アンケートをとった範囲内では、確かに日本人には係わり合いになるのを避け、決断をすることなく問題を放置する消極的な考え方をし、責任を回避する傾向があるといえる。そのことは、今年の3月に起きた東日本大震災に関連する原発事故の東京電力や政府の一連の対応などに顕著に表れているといえよう。このような傾向の背後には、一度の失敗に対して非常に厳しい処罰が下される日本社会特有の文化が関係しているのではないだろうか。このことは閣僚などが失言によって辞職に追い込まれることや、新卒一括採用などの社会的なシステムに表れているといえる。今回の研究テーマとは直接的な関係はないが、興味深いところである。今後の日本国内の状態を考えると、少子高齢化がさらに進み、国内の市場規模は小さくなって国力が落ちてしまうことは必至である。仮に国内だけの市場で食べていけたとしてもグローバル化により外国との競争に巻き込まれることは目に見えている。つまり国内だけではもはや立ち行かないのである。そのため、今後の世界経済においては、積極的に海外と協力していくことが必要不可欠であろう。そのような状況下で日本人がその強みを発揮し、より意味のある国際協力や国際貢献を行っていくためには、一人一人が責任を回避しようとせず、積極的に行動していくように心がけるべきである。研究結果より、多くの日本人は前述のような行動をとりにくいと言えるが、それでは世界に誇れる技術力などの日本の良さも宝の持ち腐れである。日本のためだけでなく世界のためにも、責任を取ることを避けようとせず、積極的に行動していつてもらいたい。

次に現状維持の面においてだが、これも仮説と整合的な結果が得られたので、アンケートをとった範囲内においては、日本人は現状を維持するために解決すべき問題が発生しているにもかかわらず、それを避けたり、あるいは見て見ぬふりをしたりする傾向が強いといえる。これらの傾向からは、なかなか国際協力に生かせる部分がないように思われるが、主に以下の研究結果から一つの案を提唱してみたいと思う。

研究では、利他的行動と最も多く正の相関が見られたのは、「あなたは満員電車のなか座っている。目の前で二人の小学生が喧嘩をはじめ、今にも殴り合いになりそうだ。あなたは二人をなだめる」という説明変数であった。この説明変数は、電車の中のような公共の場では周りの人の目もあり、自分がやらなくても誰かが解決してくれるだろうという心理が働き、周りの誰も関与しようとしないうちに自分も合わせているということの意味しているのではないだろうか。このことから、周りの状況に自分を合わせ、その結果現状を維持しようとする傾向がうかがえる。また、アンケートでの「東日本大震災前の1年間に月平均で寄付・募金をした回数」と「東日本大震災後の1年間に月平均で寄付・募金をした回数」という設問では、多くの人が震

災後の方が寄付・募金の回数が増えていたことが分かった。このことは、ことなかれ主義の度合いが強い人々でも利他的行動をしたということの意味している。今回はここに注目したい。東日本大震災直後は、日本全体で東北の被災地を応援するための様々な取り組みが活発に起こった。人々が自主的に募金を呼びかけたり大規模なチャリティーイベントが行われたりと、一種の被災地支援ブームなるものが生まれた。そして東日本大震災後に募金が増えたことには、周りの状況に自分を合わせ、募金等を行ったという面、つまり現状維持の面もあったとはいえないだろうか。これらのことから、現状維持の面を逆手に取り、日本全体で、ある目標に対して大きな一つの流れのようなものを形成すれば日本人は現状を維持しようと周りの状況に自分を合わせ、その結果一致団結し、その目標に向かっていくのではないだろうか。これはつまり、質の伴った利他的行動を行うために、日本全体で国際社会の問題に目を向けさせ震災の直後の募金ブームのような大きな流れをつくり、日本人全体を巻き込んでいけば、そこに日本人は向かっていくのではないかということである。

今回の研究では「ことなかれ主義の度合いが利他的行動に与える影響」というトピックについてアンケートをとり、検証したわけだが、その結果、ことなかれ主義のなかに責任回避と現状維持という二つの大きな日本特有の気質が見えてきた。今後も今回の研究によって得られた結果と新たなトピック、責任回避と現状維持などについての研究を進め、日本人がどのようにしたらその世界観を生かしながら世界に貢献していけるかについての研究を進めていきたい。

最後となってしまったが、この研究を進めるにあたって多大な御協力をいただいた大垣昌夫教授にこの場を借りて感謝の意を述べたい。

付録 A

行動経済学アンケート

年齢 _____ 性別 _____

☆以下の項目を読んで右の適当な目盛りに○をつけて下さい。

- ① コンビニ弁当を買った時に誤ってお釣りを多く渡されたことに気付いたら、指摘する。
- ② コンビニ弁当を買った時にお釣りが足りなかったら、指摘する。
- ③ バス停の列に並んでいて順番に順番を抜かされた時、注意する。
- ④ 学校側がいじめの事実を隠ぺいしている。あなたがそのクラスの担任教師であるとしたら、自分の立場に影響が及ぶとしても、事実を公表しようと思う。
- ⑤ 勤めている食品会社が賞状期限切れの商品を使い回しているという噂を聞いた。自分の出世の進退に影響が及ぶかもしれないが、あなたはそのことを上司に問いただしてみる。
- ⑥ あなたの周りで、上司がインサイダー取引をしているという噂を聞いた。上司との信頼関係にヒビが入るかもしれないが、問いただしてみる。
- ⑦ あなたは満員電車のなか空いている。目の前で二人の小学生が喧嘩をはじめ、身にも降り合いになりそう。あなたは二人をなだめる。
- ⑧ 高校生がたばこを吸っているのを注意する。
- ⑨ 急いでいる時に人がエスカレーターをふさいでいたら、どいてもらう。
- ⑩ 解決すべき問題が発生しているにもかかわらず、それを避けたり、あるいは見て見ぬふりをしたりする。
- ⑪ 話し合いになるのを避け、決断をすることなく問題を放置する消極的な考え方をする。

完全否定はまらない	かなり否定はまらない	多少否定はまらない	どちらでもない	多少肯定はまる	かなり肯定はまる	完全肯定はまる
_____	_____	_____	_____	_____	_____	_____
_____	_____	_____	_____	_____	_____	_____
_____	_____	_____	_____	_____	_____	_____
_____	_____	_____	_____	_____	_____	_____
_____	_____	_____	_____	_____	_____	_____
_____	_____	_____	_____	_____	_____	_____
_____	_____	_____	_____	_____	_____	_____
_____	_____	_____	_____	_____	_____	_____
_____	_____	_____	_____	_____	_____	_____
_____	_____	_____	_____	_____	_____	_____

裏面につづく

付録 B

★当てはまる選択肢を選んで、○で囲んでください。

- ① 東日本大震災前の1年間に月平均で寄付・募金をした回数
0回 1～2回 3～4回 5回以上
- ② 東日本大震災後の1年間に月平均で寄付・募金をした回数
0回 1～2回 3～4回 5回以上
- ③ 東日本大震災前に月平均でボランティア活動に参加した回数
0回 1～2回 3～4回 5回以上
- ④ 東日本大震災後に月平均でボランティア活動に参加した回数
0回 1～2回 3～4回 5回以上
- ⑤ 臓器提供に協力したいか。
はい いいえ
- ⑥ いらなくなった本はどうしたいか。
古本屋に売ってお金にしたい 首しい国へ寄付したい
- ⑦ 電車やバスの中で高齢者や身障者に席を譲るか。
よくする たまにする ほとんどしない
- ⑧ 高齢者や身障者が困っている際に声をかけるか。
よくする たまにする ほとんどしない

ご協力ありがとうございました！